

会議録

令和8年8月19日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会令和8年度第2回定例会
開催日時	令和8年6月17日(水)午後6時30分から午後8時40分まで
開催場所	柳沢公民館第一会議室
出席者	委 員：小須田厚子(会長)、松本静(副会長)、小林資郷、小池教之、渡邊耕造、亀倉康悦、花房敦子、ギログリーン江美、坂内夏子、小林大介 事務局：近藤館長、市川事業係長(柳沢)、岡本分館長(芝久保)、菅野分館長(谷戸)、一之瀬分館長(保谷駅前)、山本事業係主査
欠席者	澤井稔、下坂小百合、鈴木明美、荒井容子、山本分館長(田無)
議 題	1 審議事項 (1)令和7年度第10回定例会会議録について (2)令和8年度第1回定例会会議録(案)について(資料1) 2 主催事業について (1)令和7年度公民館主催事業報告について(資料2) (2)令和8年度公民館主催事業計画について(資料3) 3 報告事項 (1)行政報告 (2)公民館だより編集室会議報告 (3)東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1)公民館事業評価について (2)その他 (3)令和8年度第3回定例会の開催について
資 料	【配付資料】 資料1 令和8年度第1回定例会会議録(案) 資料2 令和7年度公民館主催事業報告書 資料3 令和8年度公民館主催事業計画書
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(1名) ☐ なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和7年度第10回定例会会議録について ●令和7年度第10回定例会会議録について修正点・意見の確認 (2) 令和8年度第1回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和8年度第1回定例会会議録(案)については、修正点・意見などあれば、1週間以内に事務局に連絡すること。 2 主催事業について (1) 令和7年度公民館主催事業報告について(資料2) ○A委員 ピックアップした公民館主催事業報告について説明をお願いします。 ○事業係長 公民館主催事業2件を報告する。【共催事業】第20回人形劇フェスタ in 西東京(柳沢)について、実行委員のB委員(くまさんの会)から報告をお願いします。	

○B委員

今回、20周年を迎えた。「子どもたちが気軽に人形劇を楽しめる機会を西東京市に根付かせたい」と願う市民が集まって企画・運営しているおまつりで、地域の人形劇団体と武蔵野大学ボランティアサークルからなる実行委員と公民館の共催で、西東京市に稽古場を持つ“ブーク人形劇団”の先生に指導を受けて実施している。たくさんの親子が来館され、大変盛り上がった人形劇フェスタとなった。

○分館長（保谷駅前）

社会問題講座人生を豊かにする秘訣～孤立しないために～（保谷駅前）は、60代から70代の参加者が多かった。孤立や孤独感に対する不安を抱えつつも、今後の人生を豊かに楽しく過ごすための知恵や方法を学びたい、健康やウェルビーイングについて深く知りたい、自分らしく生きる力を養いたいとの思いを胸に、講座の内容やタイトルに共感し、人生の指針となるような学びを求めて本講座へ参加された。参加者の目的は、若い世代では「自由」「時間」「自分らしさ」を強く求める傾向があり、家族や社会より「まずは、自分の生活（自分らしくいること）」が中心。自分に満足したいという自己肯定感がある。また、単身者は、「自由さ」と「孤独リスク」の両方を抱いている。そのバランスをどうとるのが課題となる。親世代は、家族全体の安定と子どもや家族の幸せが軸。自分らしく生きる力を養いたい、家族が無事で子どもがそれなりに幸せであることなどが挙げられる。仕事や家族の形が変わっているため、何を大事にしてウェルビーイングを目指すのかもかなり違うが、前提としてどの世代も自分の意志で選べること。「健康」が土台にある。

○C委員

社会問題講座（保谷駅前）は、アンケート結果を読むと誰にも起こりうる「孤独」だが、たとえ孤独になっても幸せを感じ、社会的に「孤立」しない生き方を学んだなど、楽しんで参加されたように伺える。子どもに考えてもらうのではなく、自ら多くの方にこのような講座に参加していただきたいと思った。次に、ライフデザイン講座占い入門～運命は変えられるか～（柳沢）について、担当の考察で、占いに素人の職員2人が参加者目線で、同じ立場で話が聞けたとのこと。知らないからこそ準備万端で臨んだ講座だったと感じた。

○B委員

今回のライフデザイン講座（柳沢）は、人生を左右するように思える「占い」であったが、今の時代に占いに興味を持つ若い世代も多く、本来の自分らしさを取り戻し、理想のライフスタイルを実現することを目指す内容となっている。

○C委員

今の時代、生きていくのに不安なことがたくさんあり、自分自身が考えなくてはならない世の中になっている。その様な中で、ヒントとなるような公民館講座が多くあることはいいと思う。

○C委員

ライフデザイン講座（柳沢）の参加者のアンケートに「司会2人の進行でバランスが良かった」、「和気あいあいと進行」とあるが、どのように工夫をしたのか。また、人形劇フェスタ in 西東京（柳沢）のアンケートで、毎年ながら「スタッフがやさしい」とある。このような雰囲気は大事。次に、子育て中の人のための講座絵本とわらべうたで楽しい子育て～あなたもわたしもOK、ありのままのわたしの子育て（保育付き）（田無）について、事業目的達成のために取り組んだことや工夫点が適切に書かれていない。

○事業係長

ライフデザイン講座（柳沢）は、司会の素人目線での問いかけに講師が対応し、会話しながら進行していく形を取った。また回ごとに参加者のニーズを掴み、内容自体も軌道修正しながら進めたことも功を奏したと感じる。また、子育て中の人のための講座（田無）の報告書の書き方については、担当者に確認をする。

○B委員

【共催事業】防災講座避難する+T・K・Bを考える（保谷駅前）について、以前から公民館運営審議会では保谷駅から以北の地域に対して出張講座ができないかが課題であったが、今回、場所を出張公民館として北東部地域協力ネットワーク（ほくっとネット）と共催で全3

回実施した。参加したほくっとネットのA委員から当日の様子を伺いたい。次に、現代社会を考える講座 1990・2000 年から「いま」を考える～歴史に学ぶ現代社会のしくみ5～（柳沢）について、令和3年から参加者が主体となって作り上げ、令和8年度で完結を迎える本講座について、今後の展望を伺いたい。

○A委員

今回の防災講座（保谷駅前）は、初めて開催場所を保谷駅以北の小学校や福祉施設などに移して実施した。出張講座として実施することで、公民館のない北部地域の住民が参加しやすいよう学びの場を提供することができた。ほくっとネットから、全回に参加された市民に感謝状を渡した。

○事業係長

現代社会を考える講座（柳沢）は、1950年代から10年代ずつ、5年連続で戦後から現代までの歴史を振り返ってきた。今年度はその総括という位置づけで講座を実施し、完結・終了する予定。現時点で具体的な展望はないが、資料の読み込みや自主的な対話、運営補助などを通じて高い主体性を培った参加者サークルとの連携を模索し、その活動のエッセンスを財産として引き継ぐ新たな展開について考えたい。

○E委員

50代以上を中心に大学生も参加し、今年度で総括を迎える現代社会を考える講座（柳沢）に昨年度から私も参加しているが、自身の勉強不足を感じつつも、各回の振り返りや自主的なサークル勉強会など、熱心に学び続ける周囲の姿勢に刺激を受けている。

（2） 令和8年度公民館主催事業計画について（資料3）

○A委員

ピックアップした公民館主催事業計画を発言していただきたい。

○事業係長

趣味講座心和む大人の書道～自分と向き合う私の時間～（ひばりが丘）は、半年間月1回の学びを通じて仲間との交流を深め、将来的なサークル発足も期待しながら、「ひばりが丘フェスティバル」での作品展示やワークショップの盛大な融合を目指す事業として計画している。

○B委員

前回の定例会において、質問のあった教養講座（青年向け・保育あり）木村草太さんと憲法を語ろう（谷戸）の15歳から30歳代までの青年を対象とした理由と、夏の親子体験講座ウクライナの工芸エッグアート「ピサンキ」を作ってみよう（田無）について、なぜウクライナを取り上げるのかを伺いたい。

○分館長（谷戸）

憲法は私たちの生活に大きく関わる重要なものであり、社会で生きていくうえでとても役に立つ知識を得ることになるので、若い世代にもっと憲法に関心を持ってもらいたいという思いからその世代とした。

○事業係長

また、知識や先入観を持つ年配者に講座の方向性を委ねることなく、国際情勢が緊迫する現代において知識のない若い世代だけでフラットに講師の話を聴き、同世代がどう考えているのかを色眼鏡なしに話し合って欲しいという担当者の思いがある。

○B委員

30歳代までの保育あり教養講座（谷戸）となるが、きちんと事前の打ち合わせを含めた対応をお願いします。

○事業係長

夏の親子体験講座（田無）は、ウクライナへの渡航経験が豊富な講師と支援サークルを迎え、現地に伝わる工芸エッグアート「ピサンキ」の技術やイースターの文化について親子で学ぶ機会を提供する内容となっている。そのベースには、前回ご指摘いただいたウクライナ戦争についてのテーマが含まれ、学んで作りながら、現地について思いを馳せる機会となる事業として企画している。

○B委員

子育て中の男性と子ども対象講座小学生親子料理子育て中の男性あつまれ♪パパっと、ごちそうレシピ（田無）は、設定した事業目的に「生きる力や思いやりの心、自ら作るというやる気を身につけた青少年と父親の育成」と記載されているが、もっとフラットでもよいのではないかと。また、親子タ方講座マジックに挑戦！手品のタネから作ってみよう（田無）は、講師としてF委員（西東京マジッククラブ）も関わっていらっしやるので、詳しくお話を伺いたい。

○F委員

親子タ方講座（田無）は、全8回実施する。西東京マジッククラブのショーを見たあとに身近な素材で手品の仕掛けを親子で工作・練習するもので、親子のコミュニケーションを深め、4回目（12月）には年末年始の家族の集まりや最終回には「田無公民館ロビーまつり」で一般の来館者に披露して、人前で演じる楽しさや驚きを体験してもらうことを目標としている。

○B委員

小学生（低学年から高学年まで）の年齢に合わせたマジックとするのか。

○F委員

低学年から高学年までだと体格や器用さに違いがあるが、年齢に合わせつつも、少し背伸びをした（やや挑戦的とした）難易度のあるマジックにするのが良いと考えている。

○G委員

事業名を見ただけで内容が伝わる見出しになっていることが重要である。公民館の事業名は素晴らしいと思う。また、小学生だからといって一概に簡単にするのではなく、中には器用な子もいてやる気にもつながるため、少し難易度を上げるという視点は大切だと考える。

○C委員

趣味講座（ひばりが丘）の書道は、床に座って書くのか、それとも椅子に座って書くのか。

○事業係長

担当者に確認をする。

○C委員

親子タ方講座（田無）は、長期講座でも飽きずに取り組めるよう、12月にクリスマスや冬休みなど家族の集まる場で披露する機会を設け、最終回には「田無公民館ロビーまつり」での一般公開があり、講師の手品を披露するなど設定している点が素晴らしいと思う。

○B委員

趣味講座保谷駅前でバンドをやろう（保谷駅前）の受付が申込順となっているが、初めての方を優先とするのか。

○分館長（保谷駅前）

受付は申込順とし、初めての方の参加が望ましいが、昨年度に活躍された方や2～3回目のリピーターから申し込みがあった場合も順次受け付けていく。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

令和8年第2回西東京市議会定例会で、2名の議員から西東京市の教育や公民館の意義等について一般質問があった。

○H委員

公民館がまちづくりにとって重要な拠点であることについて、どのように説明されたのか。

○公民館長

教育長からは、公民館が市民の学ぶ権利と学習の自由を保障する重要な社会教育機関として、学びの機会の提供や市民活動の支援を担っていると、その好例として公民館講座を機に発足し令和8年度内閣総理大臣表彰を受賞した「西東京自然を見つめる会」を挙げ、一人ひとりの学びが地域社会へと波及し、市民の豊かな暮らしやより良い街づくりにつながると

いう考え方を答弁した。

(2) 公民館だより編集室会議報告

●担当委員から公民館だより編集室会議について報告

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

●担当委員から東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会について報告

10月24日(土)午後から委員部会研修が実施される。狛江市のこまえみらいテラスで、中高生や若者の公民館活用をテーマにしたグループワークを中心とした研修会となる。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 公民館事業評価について

●事業係長より、4人の委員からメールでいただいた案についてそれぞれ要約しながら説明。

○I委員

4番目の案に出てくるマネジメントプロセスという言葉について、具体的な手法の名称があれば教えてほしい。

○J委員

具体的な手法があるわけではないが、毎回の定例会に出される個別の事業の報告が次の事業に生かされればいいと思っている。定例会で出た意見が担当にフィードバックされたり、職員同士で出た感想が共有され活かされていくような形が望ましい。定例会のために個票を作り、事業評価のために評価表を作ることではなく、一貫したプロセスの中でうまく機能する事業評価がなされればいいという意味を込めた。

○B委員

4つの案で共有するのは、定例会での各事業についてのやり取りが、事業評価とリンクされると評価作業の軽減と効率化を図れるのではないかと考えた。

○事業係長

ご意見を聞き、公民館職員全員で昨年度事業全体を振り返り、感想や意見、質問などを出し合う時間を設け、そこで共有されたことや浮かんできた成果、課題などをまとめる形で一次評価を行っていききたいと思う。

○公民館長

毎回の定例会でのやり取りを評価に活かすため、事務作業を工夫していきたい。次に、4名の方の意見や前回定例会で出た意見を元に正副会長とも相談をしたうえで、お手元の評価表の案を作成した。4枚の評価表とし、公民館事業計画に沿って「開かれた公民館」、「問いかける公民館」、「地域とともに」という基本方針の括りごとに主催事業(市民企画事業、公民館だよりなども含む)について評価するシートが3枚目までとなる。4枚目は、施設管理や窓口相談、団体情報の提供、広報活動などを含めた公民館全体に触れていくシートとなっている。スケジュール的には7～10月の定例会の中で、公民館運営審議会による二次評価を完了することを想定している。

○事業係長

補足として2点申し上げる。1点目、「評価の視点」という欄については、議論の中で新たに含めた方がいいという視点が浮かび上がってきた場合は追加していこうと考えている。2点目は、二次評価の話し合いの中に、公民館の魅力について気づく内容や、持つべき視点、考えるべきポイントなどが多く含まれているという意見を受け、今回の評価表では評価結果だけでなく「評価の経緯、議論のポイント」という欄を設けている。

○D委員

この4枚の区分については賛成。毎回の定例会での意見等を評価にどのように組み込んでいくのか。

○事業係長

この評価表とは別に、参考資料として全講座の一覧表を作り、その中の項目として担当者の考察と定例会で出た評価に繋がるような委員の意見を記入していこうと考えている。

○H委員

ABCの評価について、どのような基準で付けていくのか。最終的にふわっとした感じで付けていくことに疑問がある。

○公民館長

公民館事業の特性上、必ずしもABCで判定しなくてもよいのではないかという考えもある。ご意見があれば伺いたい。

○事業係長

例えば、評価欄を「良かったこと」と「課題」の2段で書いていき、ABCは付けないという方法もあるのではないか。

○H委員

昨年度と比べてどうだったのか、改善されているのか等が明確な評価表であれば、その方法でいいと思う。

○D委員

昨年、公民館がBと付けても公運審がAにする場面がいくつかあった。公運審委員は、一生懸命行われている日々の公民館事業について、相当の評価をしており応援している印象が強い。そこから見える意見やアイデアが評価表で明確に記述されれば、資料にある「価値あるマネジメントプロセス」に転換できると思う。

○C委員

公民館の1次評価はABCを付けてもらい、2次評価は公運審の役割を鑑みてABCの判定はしないというのはどうか。

○J委員

「評価の経緯、議論のポイント」という項目が入っているのが、双方向な感覚を受けるし、初めて読む側も実績と評価がどのようにつながったか分かって良いと思った。また、実績の欄については、個別の数字データなどは別途の参考資料に網羅されるということなので、ここでは前年度からの前進面や特筆すべき成果や課題など、来年度に繋がるような内容が分かりやすく文章で書いてある方がよいのではないか。

○F委員

記入例を示していただけるとイメージが膨らみやすいのでお願いしたい。

○I委員

評価表の中に、課題という欄を入れていただきたい。

○E委員

4つの項目に分けたこと、各欄の意味も含めて全体的にとっても良い評価表になっていると思った。課題の欄があると、頑張ってやったからこそ見えてきた課題ということも分かり、数値に表れてこない大切な部分についても表現できると思う。

○G委員

昨年度から委員として参加し、今回の議論を聞いていて、公民館事業は絶対評価で機械的にABCを付けていくものではないのではないかなと思った。私も、課題や改善ポイントを示して次年度にどうつなげるかを文面で分かるようなものになったらよいと思う。

○B委員

それではこの評価表を使い、一次評価が埋まり次第、定例会内で二次評価を行っていきたい。この評価の作業が、実際に事業にあたっている専門員さんたちと公運審の接点となり、循環できる関係性を築くきっかけになるようなものになったらいいと思う。また、評価の話ではないが、可能な範囲で、例えば年に各館1回ずつとか、ぜひこの定例会に専門員の方も参加し、事業にける思いや成果について直接話してもらえたらと思う。

(2) その他（公民館運営審議委員紹介文）

○分館長（保谷駅前）

公民館運営審議委員紹介紙の刷新にあたり、1年目の自己紹介に続く2年目の今回は、審議会に携わった感想や参加事業への感想、公民館への期待などのコメントをいただきたいと考えている。

(3) 令和8年度第3回定例会について

日時：令和8年7月15日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室